

令和7年度 第4回学校運営協議会

日 時：令和8年1月30日（金）10:20～12:30

場 所：山梨県立ひばりが丘高等学校 視聴覚室

（司会：教頭）

- ① 開会の言葉（司会）
- ② 学校長あいさつ
- ③ 会長あいさつ
- ④ 学校より
 - ア 校内アンケート結果について（教頭）
 - イ 教育課程について（教務主任）
 - ウ 生徒指導について（生徒指導主事）
 - エ 進路指導について（進路指導主事）
 - オ 保健教育相談について（保健主事）
 - カ 生徒会活動について（生徒会主任）
 - キ 通級による指導について（通級リーダー）
- ⑤ 意見交換（進行：会長）
- ⑥ 諸連絡（副校長）
- ⑦ 閉会の言葉（司会）

* 令和7年度第4回学校運営協議会出席予定者

● 学校運営協議会委員（順不同）

元ひばりが丘高校校長	内田 大介	様	（本会会長）
下宿連合自治会長	矢崎 政美	様	（本会副会長）
都留文科大学特任教授	佐藤 比呂二	様	
富士吉田市立教育研修所所長	林 龍樹	様	
富士吉田商工会議所直前会長	赤池 優樹	様	
富士吉田市社会福祉協議会事務局長	白須 美行	様	
ひばりが丘高校校長	小林 久美		
ひばりが丘高校進路指導主事	坂本 洋子		

* 令和7年度第4回学校運営協議会欠席の連絡をいただいた方

● 学校運営協議会委員（順不同）

富士吉田市立明見中学校校長	加々美 竜也	様
ひばりが丘高校PTA会長	藤江 康弘	様

● 本校関係者（上記の委員を除く）

副校長 教頭 事務長 教務主任 生徒指導主事 保健主事 生徒会主任
通級リーダー

● 本校関係者（上記の委員を除く）

副校長 教頭 事務長 環境防災主任

①開会の言葉（教頭）

②学校長あいさつ

- ・1年間にわたり本校の運営方針等をお認めいただきありがとうございました。また、ご助言や来年度の活動に向けての補助についてもご意見等いただきありがとうございました。
- ・昨今の新聞で思うことは、小中高生の自殺者や不登校の児童・生徒が増えており、そんな中で通信制の人気の高まり、本校も希望者が増えており、地域のニーズを感じております。本校の使命も小中で不登校があっても、高校に来てもう一度学びなおしたい、心身の管理をしっかりしようとか、人間関係の構築を学ぼうとか、学問についても小中でつまずいたところからもう一度学びなおしたい。それには本校のようにゆったりした時間と空間がある本校で学びなおせるところが本当に本校の素晴らしいところだと思っています。
- ・先生方もカウンセリングマインドを持ち丁寧に教えており、通級授業においては生徒にライフハックを教え、自分の人生を生きていくスキルを学びなおしたり、人とのつながり方を学んだり、学問についてはつまずいたところから本校で勉強しなおし、地域にとっても地元の教員にとっても、山梨県下の教員にとっても大事な学校だと思うこのごろです。

③会長あいさつ

- ・私は昭和生まれですが、価値観も通用しなくなってきており、変革を求められる時代になりましたが、本校の生徒も、社会からこの地域から必要とされている人材になりつつあり、本校の教育もその時代の変革に対応できるものであると良いと感じます。そんなバックボーンもありますので委員の方々のお力添えをいただき本校生徒の可能性の追求や進路の開拓へと重きを置いていければと思います。今回の協議会は今年度の評価と来年度へ向けての会議となるようお願いします。

④学校より

- ア 校内アンケート結果について（教頭）
- イ 教育課程について（教務主任）
- ウ 生徒指導について（生徒指導主事）
- エ 進路指導について（進路指導主事）
- オ 保健教育相談について（保健主事）
- カ 生徒会活動について（生徒会主任）
- キ 通級による指導について（通級リーダー）
 - ・各担当より資料のとおり説明

⑤意見交換（進行：会長）

（会長）初めに学校運営協議会の進め方について、特に今回は今年度の報告や評価をする回でもありますので、まず何点か確認させていただきます。学校評議員会から学校運営協議会に移行したというところで地域のより多くの視点をお持ちの関係者からご意見を頂戴し、学校の運営改善をしていくという目的の会でございます。したがって、それに見合ったご意見をお願いしたいと思います。まず、進め方ですが、学校関係者以外の地域の方が委員に含まれているので、学校評価の報告を受ける前に

各校務分掌から1年間の報告をいただき、その後に生徒、保護者のアンケート結果についてご報告いただけると全委員がわかりやすいと思います。そういった進め方に来年度は変えていただきたいと思います。また、学校評価アンケートの説明についても分かりやすいように資料にページを打っていただき、各分掌の説明、それに対する評価、そして意見交換、最後に学校運営協議会委員にどのような評価をしていただきたいか、を説明していただくと流れとして良いと思います。来年度からそんな流れでお願いした。各分掌から説明があった項目の全般を含め委員から率直なご意見を賜りたいと思います。

(委員) 学校評価アンケートについて質問します。質問内容が生徒、保護者、教員と同一であるが、その中で特に結果に違いやズレが出たものが分かるとその理由が分かり改善点が明確になるかなと思います。そのあたりがあれば教えていただきたい。また、AIドリルについての項目にネガティブな回答が多い理由が分かれば教えていただきたい。

(教頭) 最初に、教員・生徒・保護者で結果に違いがありズレが生じている項目ですが、概ね肯定的な回答ではありますが、「生徒に寄り添い、長所を引き出し、自主的自律的な態度の育成」「キャリア教育や探究活動等により社会を生き抜く力や課題を解決する力の育成」「社会性の指導やいじめを生み出さない雰囲気や道徳心の向上や姿勢に満足」の項目については教員よりも生徒・保護者の否定的な回答が見られました。これは全体としてというよりも個別のケースが考えられ、個別の対応が必要と考えられます。次に、AIドリルについては各教科によって指導の内容が異なるので教科によって使いやすい内容のものや馴染まないところがあることを教員は感じています。それぞれの教科の特性とAIドリルを融合できる指導の方法を考えていく必要があると考えられます。

(委員) 本校の指導の内容が非常に丁寧で生徒の一人一人に寄り添った指導が行われているということがうかがえます。それによってこの1年間の生徒指導上の問題行動が0件であったことに反映されていると思います。本校の教員が生徒に寄りそった指導で問題も未然に防ぐ、そんなことがよく分かるアンケート結果であり、良かったと思います。アンケートの自由記述について、書いたけども取り扱ってもらえない、何を対応してくれたのということにつながる。保護者等が書いた内容については何らか反応しなければならないと思います。それに対してどのように捉え、対応するのか教えてほしい。

(校長) 委員の皆様が特に気になる表記は、生徒が記述した生徒指導の内容や授業中の生徒に対する指導等かと思いますが、その記述内容について、関係性が考えられる教員やその周囲に問い合わせをしたり、しっかり調査してございます。その内容については共有し、否定的なコメントに対しては調査し解決しております。書かれた自由記述につきましては全てあからさまにそのままこの資料に載せてございます。

(委員) 全体の評価内容に対して、保護者や生徒へのフィードバックはどうするのか教えてほしい。

(教頭) まず、個別の内容については生徒・保護者に対して身近に関わる教員から、全体に関わることに關しては、その年次主任や関係部署の主任を通して回答しながら指導することと考えております。

(会長) 学校評価の公表はどのような形で行いますか。

(副校長) 例年学校ホームページで公表しております。

(会長) ホームページで公開してもそれを見ない保護者等もいると思うが、学校は紙ベースでの保護者への連絡等はしていますか。

(副校長) Teamsを使って保護者とコミュニケーションを図ったりしております。しかし、それに対応できない家庭もございますので個々に対応している場合もございます。

(会長) 今後学校は、保護者へのコミュニケーションツールの改善を図ってほしい。

(委員) 記名式のアンケートを取ったことがあります。個別の内容をきちんと把握し対応したいというような目的のもとに行いましたが、学校に対して伝えたい意見が書けないということをかがい、記名ではなく、学年クラスを書く本校のようなやり方で実施したこともあります。その時危惧したのは批判的な意見が書きやすくなるのではないかということです。しかし、保護者からたくさんいただいた意見に対してはきちんと受け止め、環境整備面について出された意見は集約し学校から教育委員会に伝え改善された点や、自由記述の内容については類型化し保護者にフィードバックできたことは保護者も学校に出した意見を受け止めてもらえたと感じていただき非常に良かったと考えています。

(校長) 貴重なご意見をありがとうございます。自由記述を類型化し工夫されたところは大変参考になりました。記名式の弊害等も含め大変参考になりました。

(委員) アンケート結果の見方が分かりづらく、項目ごとに対象者の率を表示していたほうが分かりやすいと思うので表示の方法を一考いただきたい。私のアンケート集計の経験から、いただいた自由記述の記名なしのものについては一つの意見として捉え改善を図り、記名のある内容については個別に対応しました。また、自由記述にある個別の案件については教員全体に共有されているのか教えてください。

(校長) ありがとうございます。職員会議や毎週行われる全体の打ち合わせ、生徒支援研究会等で早急に共有すべき案件については迅速に共有を図っております。

(委員) 物事を進めていく上で否定的意見は重要でそれを今後も踏まえていってほしいと思います。

(会長) アンケート調査の集計方法等の検討、対応を進めてほしい。

(委員) 本校は、自分は自分であって良いというような、自分は自分らしくいられる自分を育てていく学び直しができる学校で、大事な場所であると感じています。自己肯定感と自己有用感を明確に区別されている点がとても良いと感じています。教員が自己肯定感と自己有用感の区別をどう意識しているのか、また生徒自身が自己肯定感や自己有用感を感じ成長したエピソードがあれば教えてください。

(校長) 自己肯定感と自己有用感を意図的に分けて考えている点は本校に着任してから感じております。まずは自己肯定感ですが「自分は自分でいいんだ、いろいろ欠点もあるし自分の特性もあり、自分は自分でよい」という自分の居場所があると思える学校だと感じております。自分に対して無条件に自分を愛し、ほかの人に対しても「君は君でここに居て良いよ」と自分の居場所がある自己肯定感を持ち、次の段階で皆の役に立ちたい、役に立ったと言われることにより、自信が付き自己有用感を感じることができるといことかなと理解しております。

(川北) 自己肯定感、自己有用感、個人の在り方、集団の中での在り方のバランスを取ることが大切であり、これにより得られるのかなと感じております。具体的なエピソードとしては、女の子ですが、自分の取り扱い説明書を書いてもらいましたが自分の居場所が分からず困っていました。今居るべき場所は明確なので私の居る保健室で相談されても答えは一択で、教室に戻ることであり、本人が戻りづらいときは関係の教員である担任等が付き添い教室まで同行し、着席し学習課題に対応できたときにそれまで塩対応だったものをそこで初めて砂糖対応し認め、その過程の中で教師も対応の塩梅やサジ加減を身に付け指導力をあげていくことを繰り返していきます。というようなエピソードでいかがでしょうか。

(委員) そういう関わりがあるからアンケートの「自分が無理なことも頑張る」ということに繋がってくると思いました。子供は成したいという願いはあるが今はできないというところで問題行動が起きます。本当は成したいと思っています。本校の教員は学ぶ姿勢があり、カウンセラーからも学びながら資質を高め、「あるがままの自

分を大切にしてくれて、認めてくれる」そのこと自体が自己肯定感に繋がっています。アンケートにある「無理かもしれないけど頑張る」というエネルギーに繋がっているのかなと思います。本当の自立とは困った時に困ったと言えることで、人に依存できることが自立であり、それがアンケートにある自立の意味合いかなと思います。それを本校は大事にしているということをいつも感じます。

(会長) 学校評価アンケートの取り方ですが、インターネット、紙ベースで回答できるのであれば集計結果等の公表もインターネットを通じて保護者に返すことも可能であるということですね。また、本校の生徒は地元で活躍される生徒が多いと思いますので、労働条件の理解、社会保険の規定等、正確に生徒にご説明をお願いしたい。最後に委員に向けてですが、年間4回の会議はご負担だったと思います。毎回ご協力いただきお礼申し上げます。ありがとうございました。今後も学校側からの説明の一方通行ではなく、学校運営の改善の一助となるような学校運営協議会となるようにご協力をお願いしたいと思います。

⑥諸連絡（副校長）

来年度の予定等について連絡

⑦閉会の言葉（司会）